

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 中 田 輝 次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869
FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp



9月・教皇さまの
意向のために祈りましょう

① 一般の意向：宗教の自由に対する権利
② 布教の意向：民族の文化における新しい教会の
同化
③ 日本教会の意向：豊かな宣教共同体をめざして

罪のゆるしを求めて(米・平和団体のメッセージ)

広島と長崎の兄弟姉妹たちへ



私たちはアメリカに住む市民のグループで、1945年の原爆投下に心の底からの悲しみと陳謝を伝えたいと願うものの集まりです。あの夏から60年がたつ今になっても、アメリカをはじめとする世界は、真の平和とは何なのかを理解せず、平和を実現するための決意と道義の大切さの否定を繰り返すばかりです。こういう私たち自身も、かつては戦争終結という結果のみを正義として、それを達成するために行われた過ちを肯定したことがあったことを告白しなければなりません。アメリカが自国の防衛、自国民の安全、そして戦争終結というスローガンのもとに、まったく罪のない市民の方々を無差別に殺りくする行為をよしとしたことは、今の我々には信じがたいながらも、歴史的事実であります。私たちは、我々の国が皆さんの同胞、兄弟姉妹たちに想像を絶する痛みを与えたことについて、切に皆さんのゆるしをここに乞うものです。

我々は皆、一つの母、地球に生まれた子供たちです。そして創造者である一人の父につらなる僕であります。私たちは被爆者の方々の兄弟姉妹として、被爆された苦しみと痛みを分かち合い、何十万もの失われた命を悼むものです。私たちはこれまで多くの祈りをささげ、断食を行い、そして原爆の非を語り合ってきました。そうすることによって私たちは、数え切れない命を凌辱(りようじょく)した非道な行為を正当化しようとする私たちのうちに潜む不実と戦ってきたのです。

この手紙をたずさえるものはカトリック教会の司祭であります。長崎は日本において最初にカトリックのコミュニティーが生まれた土地であり、我々の国が同じカトリックの兄弟姉妹を裏切った、ということにも私たちは加えて謝罪と悔悟を表したいと思えます。特に浦上教会の方々は洗礼と聖体を通じてキリストにある義を共有するものであります。キリストの血による罪のあがないを共に受ける兄弟姉妹を裏切ったことをどうかおゆるしください。「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのかわからずにいるのです」という、救世主であるキリストの言葉にすがり、お願いする次第です。

私たちは広島、長崎原爆投下60周年のこの年を痛悔と追悼の日々にささげてまいりました。私共は、皆さんが戦禍から立ち上がり生き抜いてこられた道に従い、未来の人類の平和と共存のために、死の谷を歩むこともいとわれない勇気を与えられんことを、神に祈るものであります。

キリストにおける平安が皆さまにありますことを祈りつつ
Pax Christi 代表 ポブ・クッシング神父

活動とメッセージで 平和のために働く人々は幸い

日本カトリック司教団戦後60年平和メッセージ

「非暴力による平和への道」今こそ預言者としての役割を

今年のメッセージの趣旨は、戦後50年に発表した『平和への決意』から10年、「時のしるしを読み解き、神のメッセージを伝える」という預言者としての役割を果たさなければならぬとしている。

メッセージの強調点は①誰も侵してはならない人間の尊厳を前提に世界の人々が一つにつながり、互いに愛し合う。②アジアの国々との和解と連帯をさらに推し進める。③富の公正な分配と環境保全に積極的にかかわる。④憲法第9条に読み取れる非暴力を貫いて連帯を呼び掛け、対話によって平和な世界を築く。

⑤故教皇ヨハネ・パウロ2世『平和とアピール』の言葉「各国の元首、政府首脳、政治・経済上の指導者に次のように申します。正義のもとでの平和を誓おうではありませんか。今この時点で、紛争解決の手段としての戦争は、許されるべきではないという固い決意をしようではありませんか。人類同胞に向かって、軍備縮小とすべての核兵器の破棄とを約束しようではありませんか。暴力と憎しみにかえて、信頼と思いやりを持とうではありませんか。暴力と憎しみに代えて、共に連帯して非暴力による世界平和を築いていくように呼び掛けるとなっている(全文はカトリック中央協議会ホームページに掲載されています)。

被爆60年平和祈願祭・タイムツ行

13年ぶりのタイムツ行列をともなう平和公園へ。8月9日午後7時30分、1500人近い参列者・信者がひたひたに集った。司祭・修道士・信徒がひとつのローソクからとられた火をタイムツに移して、光であるキリストの手をたずさえて平和を願う行進をした。

タイムツ行列に続き、三末篤實・広島・宮原良治・大分・押川壽夫・那覇教区の



各司教団、朴正一・韓国馬山教区の引退司教、また各方面からの司祭が一堂に会してミサの中で平和を願うミサをささげた。高見大司教は説教の中で、「どんなに相手に非があるとあっても、ゆるし、愛することがわたしたちキリスト者にとつての最大の平和への力です」と熱く語りかけた。

タイムツ行列からおおよそ2000人にふくれあがった平和祈願ミサの参加者は、聖拝領の準備した数々を大幅に超え、夜遅くまで続いたミサの間、平和のための聖歌と祈りの声はやむことがなかった。最後に米国からの市民



佐世保地区 平和祈願祭

被爆60周年を迎えた今年、佐世保地区では終戦記念日であり、聖母の被昇天のお祝い日である8月15日(月)にアルカスSASEBOにおいて平和祈願祭が行われ、参加した信徒およそ1300人の平和を願う熱い祈りがささげられた。

初めに行われたごミサにおいて高見大司教は、「私たちにあって今日は、キリストの福音を身に付けたいなら、決して争い

被爆マリア小聖堂献堂祝式・追悼ミサ

8月9日午前10時30分より全面的に改装された浦上教会右側の小聖堂が、高見大司教によって祝別された。倒壊したがれきの中から発見されたマリア像を安置するため、このたび全面的に手を加えて準備したもの。

小聖堂には新しくされた大理石の祭壇と、かつての浦上教会の祭壇を忠実に再現した木製の祭壇



ア像を安置するため、このたび全面的に手を加えて準備したもの。

小聖堂には新しくされた大理石の祭壇と、かつての浦上教会の祭壇を忠実に再現した木製の祭壇

過去の行為への反省と謝罪を明確に表明。あわせた全米女子修道会総長管区長会の代表ベアトリクス・アイヒテン修道女による平和アピールも発表された。



や戦争はしてはならないと肝に銘じる日であり、これからも平和を築くことに力を注いでいく出発の日です」と語り、武器や原爆ではなく、愛によってしか平和は実現されないことを力説した。

続いて行われた長崎原爆ホームの被爆者の方々に、原爆の悲しさを懸命に伝えようとする舞台の上の被爆者の姿に痛ましいあの日が重なりよみがえってきた。

60年前に被爆者自身が受けたいまだ癒やされることのない心と体の傷跡からにじみ出てくる悲痛な叫びに、参加者の中には目頭を熱くする者もいた。

「あれが何して」

「あれが何して」。大変言いづらいことですが、歳をとるにつれ、言葉に出さずにこのような言い方になってきます。それが最近、全く違う見方ができると気づき、このような方々への態度を改めることにしました▼きつかけはこの夏、特定のケースで「あれ」と言っている内容が理解できた時のことでした。なぜ、「あれが何して」と言うのか、それが分かったのです。具体的に言うと、「あれ・あれ」と言っているのは、指し示している対象が脳に描かれていて、はつきり見えているその対象を「あれ」と言っている「らしい」のです▼本人の中では脳と言葉が直接つながっているのに説明する必要があるかもしれません。問題は、「あれ」でも聞く人は説明してもらわなければ分からない」ということを分かっていない点です。人に自分の思いを伝えるためには、しばしば「私にとつて明白なことでも他人にはそうではない」ことを受け止めてあげるべきでしょう▼「あの日」から60年が過ぎました。「あの日」は言うまでもない「原爆投下の日」ですが、焼き付いて離れない「あれ」ではあっても説明してもらわなければ分からない人々が大半を占めるようになってきました。「あの日」の思いをいくらかでも共にするた



純心学園慰霊祭

長崎純心女子学園(長崎市文教町、佐藤洋子校長)は9日午前8時30分から原爆で亡くなった生徒・教師214人の「慰霊ミサ」と「墓前祭」写真を行い、生徒、職員、遺族らが参列した。「慰霊ミサ」は学園聖堂

で行われ、司式の平野勇神父(浦上教会)は、「故ヨハネ・パウロ2世教皇さまは、『戦争は人間の仕業』とはっきりおっしゃいました。今与えられた平和をしっかりと受け止め、次の世代に伝えましょう」と語った。「墓前祭」では銘板の前に聖母マリア像に向けて献花、生徒代表、卒業生、理事長から慰霊のことば、平和の継承についての誓いが述べられた。同学園は今年創立70周年、被爆60周年となり、8月31日長崎市公会堂で記念行事を行う。この行事で「純女学徒隊殉難の記録」から生徒の脚本による原爆劇を上演する。

長崎市主催「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」は松山町の平和公園で営まれ、米国、韓国など在外被爆者・遺族代表者約6千人が参列した。この日、この1年間に死没した被爆者2748人の名簿が平和記念像前の奉安箱に納められた。参列者の注目中、伊藤一長・長崎市長は「平和宣言」で、今年5月、国連本部で開かれた「核不拡散条約再検討会議」で何の進展もなく閉幕した批判、核保有国に対する憤り、政府には被爆国として「核の傘」に頼らず核兵器廃絶への指導的役割を、また、在外被爆者の支援充実を求めた。小泉首相は、援護施策の推進、非核原則の堅持、核兵器の廃絶に努力するとあいさつした。また、この式典に核保有国の大使として初めて

聖体の年―「私とご聖体」⑪

思い出す初聖体

匿名希望 (大明寺教会信徒)

昨年10月に始まった「ご聖体の特別年」も残すところわずかとなりました。「私とご聖体」という題で作文をということですが、まず思い出すのが「初聖体」です。昭和10年頃の公教要理は問答式で、「聖体とは何でありますか」という問答を繰り返して暗記させられたものです。その頃の聖体拝領は準備が大変で前の晩の12時から飲み食いもできませんでした。聖体に対する聖トマの祈りの中にありますように、見、触れ、味わうところのみにては認め難けれども、とありますが、最後の晩餐(ばんさん)でキリストが直接制定なさったのですから疑う余地はありません。毎日聖体拝領を続けておりますと、習慣的になって熱心さに欠けるのではないかと反省しております。この機会に聖体拝領に対する意識を黙想することができたことを感謝しております。

馬込教会の掲示板にあったお知らせ。「主任司祭ご霊名のお祝い会について」七月十日 魚釣り大会を行います。ミサ後に開始します。参加者は獲れたもの(魚、磯のものなんでも良い)を持ち寄って二時までに会館に集合。持ってきたものを皆で食べ祝ってお祝い会とする。

「収穫物を持ち寄って皆で食べ祝う」というこの箇所にはほのぼのとした気持ちがかみ上げてきた。このささやかな感動は私が16年間働いたブラジルの小さな貧しい町でのミサとオーバーラップした。その町では特に大祝日のミサともなると天使の羽根をつけた子供たちや、着飾った大人たちが手に手に食料品を持ち寄って集まってくる。それらは長い行列となって祭壇前に奉獻され、ミサ後にはもつと貧しい人たちへと配られる。時には生きた鶏が足を括られ卵と一緒にささげられてミサの間「コッコ、コッコ

持ち寄って

谷口 涼子 (純心聖母会修道女)

と鳴いたりしていた。さらにご聖体の祭日には祭壇の横に町のパン屋さんがこの日のために焼いたパンがわんさと積み上げられる。特製の大きなパンが聖別されご聖体となり、少しずつ分けられて拝領するのだからこちでモグモグと食べる音が聞こえたり、また、いただいてしまうまでには時間がかかった。ミサが終わると子供も大人も両手にパンをもらってかえる。ご聖体の祭日は貧しい人たちがパンを十分に食べられる日のようだ。「持ち寄って皆で食べる」ということがミサを思い起こさせてくれる。いけいとなられたキリストの御体と御血が私たちを単なる会食から聖なる会食へと導いてくれる。

たった2匹の魚と5つのパンをもって奇跡を行われたように私たちがミサのときに「持ち寄るもの」それはつまり朗読の奉仕であり祈りの先唱、さい銭集め、歌い、手を合わせるなどその未熟なわずかな「持ち寄ったもの」を使ってキリストは奇跡をおこない、飢えている私たちの命を満たし、豊かにし、強めてくださる(当日の魚釣り大会は雨天で延期になりました)。

NHK主催「母と子 未来への祈り」

NHKが平和のメッセージを世界に発信する「平和巡礼2005 NAGASAKI」母と子未来への祈り(写真)は、9日午後7時半から浦上教会を会場にテレビ生中継で同8時45分まで放映された。コンサートは佐渡 裕指揮で、演奏はワイルド・ユース・オーケストラ、広島交響楽団、佐藤しのぶ(ソプラノ)、ミーシャ・マイスキー(チェロ)、五嶋 龍(バイオリン、合唱は清水敬一指揮で平和巡礼合唱団、原爆詩朗読を女優吉永小百合がつとめた。演奏曲は歌劇「リナルド」から「涙の流れるま



まに、「戦争レクイエム」から「フィナーレ」など。また、浦上聖歌隊90人も「キリエ」を合唱。子供たちも加わった聖歌隊の歌声が流れる中、西村勇夫さん(浦上)の手で被爆マリア像がゆっくりとステージに移動され、プロダラムの後半部分では、被爆者の祖母父母を持つ旧浦上小教区の子供8人による「平和の祈り」がささげられた。最後は出演者全員で「千羽鶴を歌い、平和への祈りに会場一体となり感動

- のうちに幕を閉じた。この日の入場者は約1100人。浦上・本原・西町・城山小教区などの被爆信徒2000人も招かれた。テレビ放映は、BS2、総合テレビ(九州沖縄地区放送)を女優の星野知子、ゲスト大石芳野、ハイベイジョン(全国放送)の司会を杉浦圭子アナが担当、原爆で全壊、復興した浦上教会から鎮魂の曲が世界へ発信され、視聴者を感動させた。コンサート出演者の中には、7日夜、被爆者家庭にホームステイしたメンバーもあり交流を深めた。コンサートを聞いた信徒の声。「コンサートは、カトリック以外の方も含めて1000人以上の観客が集まったと聞き驚きました。最後までずっと生中継の緊張感に包まれていましたが、被爆60年を迎える広島と長崎から世界に向けて、平和を願うメッセージを伝えることができた素晴らしいステージだったと思います」
- ▼福者カミロ・コンスタンツオ殉教祭 9月18日(日)14時 田平町焼罪史跡公園
- ▼ファミリーフェスト「家庭は豊かな人間形成の学校」 9月19日(祝)14時 カトリックセンター 教区家庭委員会、マリッジ・エンカウンター、フォーカラー共催 問合先・TEL 095(842)4450
- ▼研修会「聖書によるロザリオ」 9月25日(日)13時 井持浦教会 聖書・ロザリオ・筆記具持参、参加費500円。教区典礼委員会主催 申込先・TEL 095(844)1096 (9月23日締切)
- ▼イエズス会立山修道院お知らせ ●日帰り黙想 9月26日(月) 10時〜15時半 ●2泊3日黙想 ①9月17日(土)〜19日(月) ②9月23日(金)〜25日(日) 初日17時〜最終日15時半
- TEL 095(821)4577
- ▼第30回大村殉教祭 10月2日(日)14時 大村市民会館 問合先・植松教会 TEL 0957(2)2256
- ▼島原教会主催殉教者列福祈願ミサと聖体行列「聖体の年の決意を殉教者とともに」 10月9日(日)13時 原城趾本丸(ミサ)〜行列〜三の丸
- 香典返し お礼とご報告
- 長崎カトリック神学院 ●黒崎一義様(黒崎) 故ヨハネ黒崎一雄様 右の方から神学生養成のために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごめい福を心からお祈り申し上げます。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ハウロ 西村 勇夫

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

総合不動産業 土地・建物・アパート ◎仲介
マンション・店舗・貸家 ◎管理

県免(5)第2319号 全日本不動産協会会員

土地と建物 総合情報管理

高橋産業

代表 高橋 幸治

長崎市大浜町1597-29 ☎849-4645

マイホームの美容と健康に!

(有) 山川 塗装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協合理事
長崎県見物営繕工業協同組合理事

代表取締役 ベトロ 山川 進

佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大田 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8436

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

福江市上大津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551
24時間営業 FAX (0959) 74-5552

なが さき せき ちょう

石碑 墓工事 墓分譲

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

〒852-8013 長崎市梁川町6-17 岩永ビル
☎(095)862-2469

根獅子・紐差小教区「合同殉教祭」

8月14日、第7回根獅子・紐差小教区紐差、木ヶ津、大佐志教会主任司祭・片岡久司師主催の「合同殉教祭」が宝亀教会中浜敬司師、田平教会島山邦夫師、根獅子町の役員らを迎えて、地元の聖地としてあがめられている根獅子公園で行われ、信徒、関係者約500人が参加した。午後7時20分過ぎ、



さまに扮した6人の信徒(写真)が司祭の祝福を受けた後、たいま「行列」をしてマリアさまの建立地・聖地の森を巡り同8時から殉教者を救い殉教したおろくにん



称賛と聖母被昇天を祝うミサに移った。
ミサを前に地元役員の「我々は宗派を超え殉教祭を行って平成4年に途絶えた根獅子独自の土着信仰形態があつたことを子孫々に伝える義務があり、この殉教祭が続くことを願っている」とあいさつした。

イセエビ解禁 大漁祈願祭

8月21日、イセエビ刺網漁の解禁日を迎えて、馬込教会信徒の刺網部会に呼び掛け、初めての「大漁祈願祭(写真)」を執り行った。きっかけは、中田輝次主任神父の「生活にもっとカトリックの儀式が取り込まれても良いはず」という考案に、漁師全員が応じたもの。司式した中田神父はヨハネ福音「ふしぎな漁」の場面に触れて、仕事にもキリストの導きに信頼することが好結果につ



五島で部落問題委員会

7月16日から18日まで日本カトリック部落問題委員会委員長・谷大二さいたま教区司教、教夏季合宿が長崎と五島で行われ、長崎教区からは高見大司教、橋本 勲師のほか信徒も参加、全国から約40人が集まった。
長崎市内ではキリシタン時代の教会跡や被差別部落なると励ました。
この大漁祈願祭を無事に終えて、漁師町の教会は、

跡を阿南重幸氏(長崎人權研究所)の説明を受けながらたどり、その後五島に渡って久賀島などの殉教地や教会巡礼を行った。
参加者は、キリシタン差別、部落差別の歴史認識をより深め、特に牢屋の窄殉教地では、悲惨な迫害に耐えた信徒の信仰の強さに感動すると共に、殉教を必要以上に美化することなく「信教の自由と人間の尊厳を身を持って主張した」という内容の解説碑文の視点に心を打たれていた。

アヴェ・マリアの夕べ

7月31日(日)午後7時、時津教会で同小教区宣教会委員会主催による第4回アヴェ・マリアコンサートが盛大に開催された。出演者は昨年に続き、世界的に有名なギタリスト山口修氏、声楽家の山口純子氏、フルーティスト柿崎ともみ氏。今年は戦後60年にちなんだ歌や



生け花による典礼表現

7月24日、カトリックセンターで教区典礼委員会主催の「生け花による典礼表現」研修会が行われ、修道女・信徒ら約60人が参加した。このテーマの研修会は4月の佐世保会場(依町教会)での開催に続き2回目。典礼奉仕としての生け花の表現を、華道・典礼暦・聖書朗読の黙想から探り、実際に季節の花材を使って、それぞれ典礼表現に挑戦し

音楽、また、クラシックや子供向けの歌など3人が繰り広げる素敵な旋律とユーモアあふれるトークに約300人の観客は心から聴き入っていた。

一般応募では信徒の後(うしろ)伸也さんがクラリネット、山口由香理さんがオルガンで参加、山村憲一主任神父と山口修氏とのギター共演も披露

最後は子供聖歌隊、一般聖歌隊、出演者、観客らが一体となり、全員で時津教会テーマソング「ぼくらは家族(ひと)と」を合唱し終了した。

広島巡礼 祈り・行進・平和アピール

8月5・6日、被爆60周年祈念巡礼(教区宣教会委員会主催)のため橋本 勲神父をはじめとする長崎の巡礼団計42人が広島を訪れ、平和を祈った。
5日早朝、カトリックセンターを出発、聖歌とロザリオのうちに広島原爆慰霊碑前に到着。60年前の原爆投下時刻6日8時15分、一瞬にして生ける物が死の世界へと一変した惨状を思い冥福を祈り、世界平和記念聖堂ま



で市中行進に参加し平和をアピールした。午後7時半からは同聖堂で平和祈願ミサ(写真)が行われ、高見大司教も参加、教皇庁駐日大使アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教、司教団と共に平和を祈り願った。翌6日、山口ザビエル記念聖堂で被爆記念ミサ、津和野教会では聖体賛美式、乙女峠を巡礼して静かに帰路についた。

て話すと、子供たちの目は絵に集中し、話を聞いていただけです」と、その効果を話す。
築地さんは、小学校4年(10歳)のとき、天主堂下の自宅(本尾町)から当時町内会長をしてい

自分たちの仕事とカトリックの儀式とがもっと緊密に結びつくきっかけをつかんでもらえればと考える。ちなみに、翌日はすぐに祈願祭の効果が現れ、主任神父のもとには「山のようなイセエビと、クロ(メジナ)」が届けられた。
7月24日(日)、第23回長崎地区壮年親善ソフトボール大会が山田屋木鉢・神ノ島グラウンドで開催、高見大司教はじめ4人の来賓を迎えて18小教区から20チーム、壮年約400人が集まった。
大会は大司教の始球式で真夏の炎天下、熱戦が繰り広げられた。成績は次の通り。
〈Aパート〉優勝 滑石、2位 木鉢、3位 植松、4位 時津
〈Bパート〉優勝 黒崎、2位 諫早、3位 浦上、4位 長与



被爆画家

築地 重信氏(70)



足をとめた。
「被爆画家・語り部画」として、おもに浦上教会の廃墟を水彩で描く。
語り部画は「子供を対象とした講話となると、いかによさしく話すか難しい。でも、絵を手にし

た祖父の物件で高尾町にきていたとき被爆、住家の軒先で押しつぶされ下敷きとなったが、幸いけがはなかったという。でも自宅にいた祖父・母らは即死。被爆後は、疎開していた祖母と三ツ山で

バラック生活をする。語り部画として原爆忌60年を迎えて、何か考えることは、「それは、何となくも長崎の原爆遺構が年々失(な)くなっていくことです。子供たちへの平和への『継承』は大事なことで、被爆の実相を絵で見せ、語り続けていきたいと思っています」。

朝な夕なミサ、公教要理の勉強に通った旧天主堂、描いても描いてもその面影は脳裏から消えず画の対象には不自由しな

旧浦上天天主堂の模型は、長崎総合科学大の建築学科の松尾有平助手が主宰の時のことを
長崎市戸石町居住。

子供球技大会



8月11日、若手司祭の集い「デイダケの会」主催による長崎地区子供球技大会がシーハット大村を会場に開催された。長崎地区以外に五島や大分

教区からの参加もあり、37チーム約530人の子供たちが暑さに負けず熱い戦いを繰り広げた。成績は次の通り。
〈男子〉優勝 飽の浦、2位 滑石、3位 木鉢
〈女子〉優勝 水主町、2位 滑石、3位 本原

テレジア

松尾マツエ修道女(お告げのマリア修道会)



7月20日、聖フランシスコ病院で帰天。長崎市上野町出身。77歳。1947年入会、61年初誓願、76年終生誓願。入会后、長年児童養護施設で児童の養育に務め、修道会総会計、大浦天主堂、久賀デイサービスセンターなどの勤務を経て十字修道院へ。03年8月病に倒れ、祈りの人として病床で会員を支えた。奉獻生活58年。病床にあっても人々に愛を込め、ユーモアをもって接する明るいシスターだった。葬儀ミサと告別式は同22日、十字修道院聖堂にて執り行われた。

マリア

中野フミ修道女(お告げのマリア修道会)



7月29日、聖フランシスコ病院で帰天。鹿児島県名瀬市出身。78歳。1952年入会、76年初誓願、76年終生誓願。入会后、児童養護施設の立て直しと児童養育のため農作業・養豚業を行い、66年幼稚園の用務員、67年から保育園の調理員を15年務め、一線を退いた後はホスチア焼きの奉仕、修道院内で炊事・野菜つくりなどに励んだ。03年入院、手術を繰り返しながらも祈りをもって姉妹を支えた。奉獻生活52年。葬儀ミサと告別式は同31日、十字修道院聖堂にて執り行われた。

ルチア

松下スエ子修道女(お告げのマリア修道会)



7月30日、カリタス中央診療所で帰天。長崎市飽の浦町出身。81歳。1937年入会、59年初誓願、67年終生誓願。入会后の自給自足の中、農作業に従事、66年開園した聖マルコ園の用務員を8年務めた。78年から入退院が続き、近年は視力を失った。病の苦しみ不自由さや孤独など口にせず、すべてを穏やかに神に委ね、祈りや聖歌を大きな声で唱える信仰と奉獻の姿は、会員の模範となった。奉獻生活68年。葬儀ミサと告別式は8月1日、出津教会にて執り行われた。

